

で巾も狭く、脈は著しからず毛茸は少なく且餘り開張せず。色も赤褐色を帯びて居る。THUNBERG の *C. brunnea* は日本産である事から推して此等の何れかの一つであらう事は疑ひもないが此の型か北の型か原標本を見ない内は判らぬ問題であるので Dr. C. G. ALM 氏に依頼して花序の寫眞と小穂一個を貰ひ受ける事が出来ないのであるが吾々の豫想に反して南の型の毛の少ない品であつた。従つて *Carex brunnea* TH. はナキリスグには適用出来ないので私は北型に *Carex Nakiri* OHWI sp. nov. と呼ぶ事を提案する。此の兩品のどちらとも云ひ切れないものに *Carex lenta* D. DON. と *Carex ischnantha* STEUD. とがある。後者の type locality は日本であるが記載によると極若い標本ではつきりせぬし、前者は地理的に大變離れて居るので標本を見ずに異同を論ずるのは危険である。又 *Carex Franchetiana* LÉV. et VAN. は少くとも一部分はセンダイスグ (*Carex sendaica* FRANCH.) であつてナキリスグではない。前記の種類が若しもナキリスグであつた場合にはそれに改める事にして、不確な名を用ふるよりも新名を選んだ南の型、即ち眞の *Carex brunnea* THUNB. の和名は *Carex gentilis* var. *oshimensis* KÜKENTH. に對してつけられたコゴメスグを用ふればよい。*Carex amami-oshimensis* AKIYAMA. はその異名となるべきである。

抄 録

アーノルド氏：——*Archaeopteris* は羊齒狀裸子植物ならん、(C. A. ARNOLD: —On Seed-like structures associated with *Archaeopteris*, from the Upper Devonian of Northern Pennsylvania, (Contrib. Mus. of Palaeont. Univ. Michigan, IV. 1935. p. p. 283-286, 1 fig.)

上部泥盆から下部石炭紀に産し其時代の示準化石として有名なる *Archaeopteris* は元來何者なるかに就ては世人の均しく注目せし所なるが、アーノルド氏は今回北米の上部泥盆にて裂片のある穀斗上に座す種子狀構造のものが *Archaeopteris hibernica* の葉と共存するを發見し、多分本品は羊齒狀裸子植物の一ならんと云ふ。(G. KOIZUMI)

萬 國 植 物 命 名 規 則

(本誌 第四卷 第三號 191 頁に續く)

第 10 節 同級級の二つの群が合一された場合、或ひは多型の生代變更をなす菌類に於ける名の選擇 (第56-57條, 勸告 XXXIII-XXXV)

第 56 條. 二つ又はそれ以上の同級級の群を合一する時には最も古き適法名又は (種及び其の小區分にては) 最も古き適法の性質形容詞を保留する。名又は性質形容詞が同じ日附である場合